

もともと自分は、この行事にあまり意欲が無くなんで参加の紙を出してしまったんだらうと思う節が何度もあった。しかし、いざ東京研修をやってみると想像していたよりも興味深いことばかりで人生で一度あるか、無いかの経験をすることができた。

まずディレクトフォース夏季プログラムでは、自分が全く知らない経験をしてきた人達との対話をすることができた。どの人と話しても驚くことがたくさんあり、とても興味深いものばかりだった。そんな人達でも高校生時代は、普通に部活して普通に勉強していたという人もいてとても驚いた。自分達のような生活をしていてもいずれあの方達のような大きな存在になる人もいるんだなと思った。聞いた人によっては高校時代には二高のような学校にいて全く輝けていなかったという方もいて人が将来どのような姿になるのかは、大人になるまで全く分からないなと感じた。皆さんが揃って仰っていたことが社会に必要とされる人材になれということだった。たしかに、勉強だけできたところで他の様々な能力が欠けていては社会にでも無能になるだけだ。必要とされる人材になっておかないと自分が生きていけなくなってしまうから、日々そういったことを考えて行動できるようにする必要があると思った。また、グローバル化が進んでいて、どうにも海外との競争は避けられないだろうということが分かった。でも、その前に自分の国の文化、歴史や伝統を理解し、英語を覚えていかないと立ち向かえないと言われた。海外に行かないから関係ないではダメだそう。よって、どんな職業に就いたとしても自分を磨いて独自の視点を手に入れ、自己主張の力を手に入れる必要があることが分かった。

日常もグローバル化に侵食されていることが分かった。例を挙げると LINE である。そもそも韓国が大元の企業で我々は様々な個人情報を LINE に晒しているがそれは、韓国に自分達の個人情報を晒していることである。このように我々の周りにもグローバル化が迫ってきていることも知ることができた。外国で過ごした方々は皆自分と違う考え方を手に入れ視野が広がったそう。今、自分が外国の人々と接する機会はなかなか無いので外国人の考え方を手に入れるのはなかなか難しいことだが、国際社会において取り敢えず相手を思いやる気持ちを忘れてはいけないことが理解できた。人生とは何かしらのテーマを見つけることだと言われた。そのテーマを見つけるためにいろんなことをやってみることが大事だと思う。この、ディレクトフォースで様々な視野を身につけることができた。

次は、放射線医学総合研究所に向かった。いろんなところで道に迷いかけたが何とか辿りつくことができた。千葉県の稲毛駅から歩いて行くととても大きな建物が見えてきた、それが放医研だった。そもそも重粒子線とはがんの部分だけに集中して当てるもので今までの放射線治療では治すと身体に異常がのこることもあるものが重粒子線を使うことによって異常が残らずに治療することができるものだそう。そんな素晴らしい技術の欠点というのは、全く予想外だったのだがとても電気料金が高いということだった。一年間で何億ともお金が飛んでいくらしい。訪問したときは年に 2 回のメンテナンスの日だったらしく治

療の機械を見せてもらうことができた。ボキャブラリーがなくてうまく説明できないが取り敢えずどれも巨大だった。そりゃ電気料金食うよなと思うぐらい大きなものばかりだった。だがら、しかしそのおかげでがんをたったの一日で治すことも可能だそう。放射線に関わっているからその能力は患者のがん治療にどの治療法が適切か客観的に見れるということだという。

放射線技師になるには資格を大学からとるか専門学校からとるかの2通りがあるが、大卒からじゃなければ採用してくれないところもあるし給料も大卒のほうが断然高いので大学を卒業してなったほうがいいとのことだ。医療系に就くにはコミュニケーション能力も大事でコミュニケーションが適切にできない人は例え学力があつたとしても向いていないそう。仕事をする上でのやりがいはそもそも人の病気を、治せることや。外科の人でさえ治せない病気も治せてしまうことがあるということだそう。今後の目標を伺ったところ医者の方は治療の際の副作用を少しでも無くすことや技師の方は患者を治しながらも研究ができるようなところを作っていきたいと仰っていた。ふと思いついて行って見た場所だったがとてもたくさんのことがあつてとても凄惨なところに行ってしまったという驚きを感じた。なかなか遠いところにあつたため東京に戻る際に少々寝てしまったが無事にホテルにつくことができた。

その後の二高卒業生との座談会ではどんな感じで東大に受かったかの話や東京での生活について聞くことができた。受かった人達の話の聞いているとみんな一貫しているのは、計画的に勉強していたということだった、早い段階で勉強の習慣をつけることが大事だそうで今現在の自分は全くついてないのですこしでもつけていきたいと思った。二高の中で一番のような人がほとんどで凄惨な人ばかりだと驚いた。少しでもいいからこの人達に近づけたらいいなと思って少しは勉強を初めてみようと思うことができ刺激を受けた。いろんなバイトをしているそうだが家庭教師がとてもいいらしいことも教えてもらった。中には使うあてが無いそうで何百万も貯めている人もいて面白かった。二高での思い出話も聞くことができこんな凄惨な人達でも二高生なんだなあと思った。なかなか聞けない貴重な話を聞くことができいろんな刺激を受けることができた座談会になった。

翌朝、眠気に満ちている体を起こして電車に乗っていると東京の街並みはとても大きななあと思いながら東京大学へ向かった。まず、最初にいった駒場キャンパスでは、滅多に入れない図書館を見学することができた。設備がいろいろ豪華でとても過ごしやすそうだった。図書館にあるpcは全てiMacだった。その後には、自分の進路について考えさせていただき自分の進路を決めるのには決まった決め方はなく人それぞれだということが分かった。駒場キャンパスでは、銀杏の樹がたくさんあって秋にはとても臭うそう

次に本郷キャンパスへ行った。ただでさえ駒場キャンパスでも規模が大きかったのがさらに大きかった。スタバやサブウェイや売店がそこら中であつて1つの街が作られているようだったそこで驚いたのは赤門が東大の正門ではないということだった。見学していたら本郷キャンパスは昔のヨーロッパの住宅街のような雰囲気がした。そして、農学部を見

に行ったが同じ学部でも様々な棟に分かれていることがわかった。

次に、模擬授業を受けた際には、とても興味深い話を聞くことができた。その後に、研究室を見学させていただいたが漫画やドラマで見るような感じがして面白いなあと思った。

最後に個別相談会を行ったが、一日目の夜と同じように

いろいろな興味深い話を聞くことができた。貴重な時間を過ごすことができた。その中で思ったのが東大生の企画力の凄さだ。こんな大人数を纏めるのはなかなかできないことだろう。二高でも自主自立を掲げているが東大生はその完成形に近いものだと思った。この研修を通して今までなかった様々な視点を見つけることができた。そして、訪問する際の態度や時間を考えて行動する力など様々な力を得ることができた。このような機会を得られたことを忘れないようにして進路に役立てていけたらとてもいい研修になったと思う。